

平成24年度 第2回愛知県生涯学習審議会会議録

1 開催期日

平成25年2月14日（木）13時から14時40分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

3 出席した委員の氏名 17名

浅井喜代治、足立誠、大島伸一、小川明子、恩田やす恵、木本文平、志村貴子、鈴木照美、津浦純子、服部重昭、林 寛子、牧野秀泰、松田武雄、山田淳夫、山田久子、吉川佳代、和田典之

4 欠席した委員の氏名 1名

加来正晴

5 会議に付した事項

○ 議事

- (1) 愛知県生涯学習推進計画（案）について
- (2) その他

6 議事の経過

○ 会議録署名人の指名

会長から小川委員と吉川委員を署名人に指名

○ 愛知県生涯学習推進計画（案）について

事務局から説明

○ 専門部会報告

報告の内容は別紙のとおり（松田専門部会長から報告）

○ 質疑応答

質疑応答の内容は別紙のとおり

○ その他

事務局から今後の計画策定スケジュールを説明

【専門部会報告について】

〈専門部会長からの報告〉

- 専門部会は10月11日、11月8日、1月15日の3回実施した。
- 第1回の専門部会では、県政世論調査の結果や第2章の生涯学習にかかわる各主体についての検討を行った。
- 主なものとしては、貧困な状況にある家庭の問題、青年団や婦人会について会員が減少している状況、地域メディアの位置付け、地域づくりの中心となる公民館の役割などである。
- 第2回の専門部会では、第1回の議論を踏まえた修正文案と第3章の文案についての検討を行った。
- 主なものとしては、県がどのようにリーダーシップをとっていくのかという問題や、第1章の社会経済情勢の変化と第3章の県の施策の関連、若者の就労にかかる県の施策などである。
- 第3回の専門部会では、第1章から3章までを通して、不十分な点やさらなる修正が必要な点などを議論した。
- 主なものとしては、社会教育におけるESDへの取組の状況、公民館活性化支援への県の取組などである。
- 3回にわたる専門部会を経て、当初の案に比べて、計画としてはかなり良い内容のものができたと思う。
- しかしながら、第3章の「長寿社会を豊かに生きる生涯学習」の3番目に「学校教育の充実」が配置されているのが、やむを得ないものとは思いますが、少し気にかかる。

【愛知県生涯学習推進計画について】

〈各委員の意見要旨〉

- この審議会の役割について、各委員の間でなぜ今、生涯学習が必要なのかという全体のイメージが共有され、誰が、何を行おうとしているのか、どういう役割を持つのかという点で合意することができれば、その役割は果たせたものとする。
- 人々が一番抵抗を感じているのは「老人クラブ」という名称であり、この生涯学習推進計画においては、例えば、「熟年クラブの活動」というような表現の方がよいのではないかと。
- 65歳以上が高齢者ということで、様々なことが制度化されているが、65歳以上を高齢者ということには、まったく根拠がない。
- 現在の高齢者は80%以上が元気である。昔は人生50年であったが、今は人生80年であり、65歳から75歳の方について、なかなか老人というイメージでは見られない。
- 全体的に目配りがされているが、「長寿社会を豊かに生きる生涯学習」の中に学校教育があるのが、そぐわない感じがある。
- 「青少年の健全育成」において、地域ぐるみの子ども・若者育成支援や地域における青年指導者の養成など具体的でよい施策があり、モラルマナーのキャンペーンよりもこれらの施策を優先すべきである。
- 「多文化共生社会の推進」において、子どもに対する教育だけでなく、大人の外国人に対する教育も必要である。
- 学校でキャリア教育が必要であるということが言われるが、雇用者の求めているものと果たして合致しているかどうか気になる。教育現場の目線から見て、必要なものがプログラムされており、それを教育の中で行っているのではないかと。
- 県の施設だけでなく、計画においても名古屋市近郊を中心としているものが多い。東三河県庁ができ、これからは三河地方でも何かをやっていこうということにはなっているが、なかなか三河の方には情報が聞こえてこない。
- 清掃活動や震災への支援など公立学校だけでなく、私立学校もそれぞれの特徴を生かしていろいろな活動を行っている。この計画においては、そのあたりも対応していただきたい。
- 施設がアクセスしやすい場所があれば、活動拠点として成り立つが、県全体を見た時に、どこでも同じようにというわけにはいかない。それを、この先どのように解決していくのが課題である。
- 施設中心で考えない方がよいのではないかと。学区のコミュニティセンターでも遠く、県で運営している生涯学習の情報ネットワークが非常によいと思う。
- 全体的にNPOなどに期待する役割が少ないと思う。
- 時間的、気持ち的な余裕がないと、とても生涯学習と言ってもらえない状況があり、この計画においては、総労働時間の縮減ということも書いていただきたい。

- 生涯学習の奥深さ、大切さというものを強く感じ、細かく配慮された内容で、よくまとめられたものと思う。
- 「家庭と地域の教育力を高める生涯学習」の中に「障害者との共生社会づくり」が入っているが、この「障害者との共生社会づくり」には、障害の有無にかかわらず、共に地域で明るく暮らせる社会づくりを促進するという記述があり、むしろ「持続可能な社会づくりを進める生涯学習」の方が、配置する箇所としてふさわしいのではないかと考える。

〈事務局の発言要旨〉

- 学校教育の配置箇所については、いろいろと検討を重ねたところではあるが、再度検討をしてみたい。
- 多文化共生社会の推進で、大人に対する施策について、関係する課に照会し、掘り起こしを図りたい。
- 「職業的自律を高める生涯学習」において、終身雇用を前提とした職業形態ではないという意味で、リセットするための職業能力の向上や大学等高等教育機関を活用しながらのリカレント教育について記述している。
- 愛知県の1か所で何かを行う時には人々が集まりやすい場所ということで、名古屋中心になってしまうが、行政としてそれでよいと考えているわけではなく、できるだけ県民が幅広く、あるいは便利に参加できるということを考えている。
- 本計画において、学校という大きな生涯学習の場で、私学も包括できないかと考えている。
- 皆が集まりやすいところということで、名古屋近郊になりがちであるが、そういう形で生涯学習を進めていくという考え方ではなく、それぞれ各地域の基盤となるところでしっかりと活動していただくことがたいへん重要であると考えている。県としては、市町村が生涯学習を推進していく時のサポートを行っていくことを考えている。
- 「生涯学習推進体制づくり」において、生涯学習情報システムを充実させて、情報発信を進めていくことを述べている。
- NPOの方への期待については、地域の住民が自分たちで地域の問題解決を図っていくことができるように、市町村と連携して活動を行っていくことを記述している。
- 持続可能な社会づくりの大きな要素として、様々な条件のある人々が共に生きられる社会をつくっていくということがあり、障害のある人との共生ということでは、持続可能な社会づくりの大きな要因になると思う。事務局でも非常に迷った部分があり、再度検討をしたい。